

飛躍する台湾産業



# 産業構造の転換を進める 台湾の化学繊維産業(1)

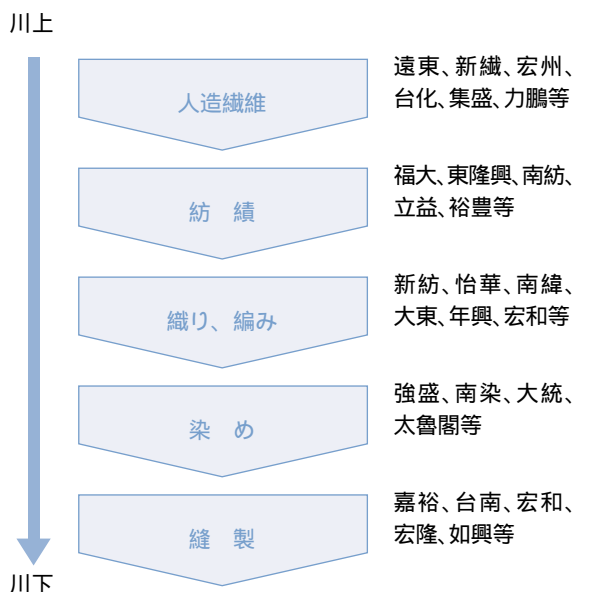
戦前に萌芽し、戦後は綿紡織(40~50年代)、化繊(60年代)、服飾品(70~80年代)などに牽引されながら成長を続けてきた台湾の紡績産業。その中で、化学繊維は台湾の繊維需要の85%を占めるが、近年はコスト優位性のある中国やアセアンなどの伸張を受け、従来の服飾用繊維中心の生産構造からの転換を迫られている。今回は、台湾化学繊維産業の現況について紹介する。

## 概況 整ったバリューチェーン

台湾の紡績産業は川上の石油化学工業から川下の紡績、編み、染色、縫製などの加工製造業まで、整ったバリューチェーンを有する(図1)。化学繊維工業はその重要な一環を為している。2008年の台湾の化学繊維(繊維素を含む)生産は219万トン、世界シェアは5.5%と、中国(58.2%)、アセアン(6.8%)、インド(6.5%)、西欧(6.3%)に次いで、国・地域別の5位につけている。

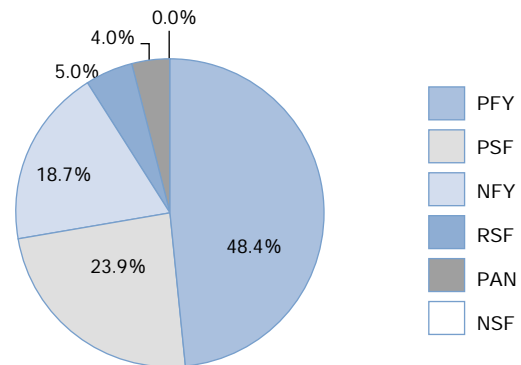
台湾化繊工業の08年の生産額は1216億元(前年比21%減)であり、紡績工業全体(4,338億元)に占め

図1：台湾の紡績産業のバリューチェーン



出所 經濟部投資業務処

図2：台湾の主要科学繊維の生産量内訳 (2008年:計210.8万トン)



出所 台湾区人造繊維製造工業同業公会

る比率は28%だった。台湾では天然繊維に対する需要は限られており、中華民國輸出貿易統計月報によると、08年の台湾の繊維総需要に占める化学繊維の割合は84.8%に上り、天然繊維はわずかに15.2%に過ぎなかった。08年の化繊企業の販売額上位社は遠東紡織(506億元)、新光合成繊維(231億元)、集盛実業(135億元)、台南紡織(105億元)などである。近年、服飾品は新興国に押されて生産量を減らしているが、化学繊維は服飾ベンダーらのニーズに応える高品質製品を供給することで、生産量を維持している。

## 主要化繊の供給状況 PFYがメイン

2008年に台湾で生産された主要化学繊維生産量(210.8万トン)の内訳は、ポリエステルフィラメント(PFY)が102万トン(48.4%)、ポリエステル短繊維



繊維 PSF )50.3 万トン( 23.9% )、ナイロンフィラメント( NFY )39.3 万トン( 18.7% )、レーヨン短繊維( RSF )10.5 万トン( 5.0% )などとなっている( 図2 )。

また近年、主要化学繊維の内販 / 輸出版売の比率はほぼ 6 : 4 で推移している。輸出先の一位には中国( PAN、NFY )、ベトナム( PFY )、米国( PSF )といった国々が並ぶ。主要化繊の内、内販比率がもっとも高いのは衣類などに用いられる PFY である。08 年に生産された 102 万トンの内、80.2 万トンが国内向けに販売された。一方、輸出比率が最も高いのはポリプロピレン短繊維( PAN )であり、08 年に生産された 8.3 万トンの内、76.4% に当たる 6.2 万トンが中国やインドネシア、イラン、タイなどに輸出された。また、NFY は主要輸出先であった中国での NFY 生産の増大に伴い、インドへのシフトや、新たな輸出先として中東や米州などの開拓が進められている。

### 技術優位にある素材 ナイロン 6.6

紡績産業の世界シェアを見ると、中国が圧倒的な優位を誇るが、技術的に台湾が優位にある製品もある。例えば、遠東英威達や勝隆繊維などが製造しているナイロン 6.6 紡織用長繊維である。台湾企業は紡績速度や温度コントロールなどの生産技術に優れており、同繊維、または同繊維で編まれた生地が中国などに輸出され、ナイキやアディダス、プーマといった服飾ベンダー向けのスポーツウェアなどに用いられている。

### 原料供給状況 PTA は自給率 100% 越え

台湾化学繊維工業の発展を支えている要素の一つが、川上の石油化学工業からの安定した原料供給で

ある。現在、ポリエステルの主原料である高純度テレフタル酸( PTA: 中美和石油化学などが生産 )及びエチレングリコール( EG: 南亜塑膠工業などが生産 )の自給率は 100% を超えており、国際貿易においても重要な原料サプライヤーとなっている。一方、ナイロン樹脂や繊維の原料であるカプロラクタム( CPL )の自給率は 34% に留まっている。08 年の主な化繊原料の供給状況は表 1 の通りである。

表1：2008年の台湾化繊原料の供給データ

	生産量	輸入量	輸出量	需給量	自給率
PTA	4,040,444	0	1,986,202	2,054,242	197%
EG	2,013,642	243,036	1,432,127	824,551	244%
CPL	215,820	421,283	173	636,930	34%
AN	359,502	135,846	121,204	374,144	96%

出所 )台湾区人造繊維製造工業同業公会

### 展望 進む産業用繊維へのシフト

台湾紡績業界は政府、企業、学会、研究機関などが協力し、付加価値の高い紡績製品の開発を進めている。特に機能性繊維、低環境負荷繊維、複合加工繊維、新合繊、工業繊維、非織布用途短繊維の 6 カテゴリーの研究開発に力が注がれている。これらの新技術の応用範囲は衣類にとどまらず、インテリアや産業用にまで広がっている。08 年の台湾紡績産業における衣類用 : インテリア用 : 産業用の生産額の比率は、6 : 2 : 2 だったが、15 年にはこの比率が 5 : 2 : 3 になると予測されている。

今回は台湾で進行している新繊維開発の動向について紹介する。